

■H22年度 第2回 博物館協議会 要点録■

日時：平成23年3月15日(火) 午後1時～

<出席者> 委員：大橋、小和田、木村、西川、衣斐、草野、中井館長
長浜城：太田、森岡、北村、佐々木、西原、山口、富岡、福井

<館長挨拶>

会議の前に、小谷城戦国歴史資料館、浅井歴史民俗資料館を視察いただき、たくさんの観光バスが入っていく様子も見ていただけたことと思います。

また、両館では、“おもてなし人”から説明を聞いていただきました。

当館では、3月12日から親鸞聖人750回忌記念の特別展が始まっています。

今後も、委員の皆様のお力添えをよろしくお願い致します。

<議題>

2)特別展等の展示見学・説明について

○2階展示室「湖北 真宗の至宝と文化」 太田から解説

大河ドラマ関係が始まる2年前から実行委員会を組織し、取り組んできた。

真宗が湖北地方にどのように伝わってきたかを体系的に展示している。

スペースの都合上、3回の展示替えを予定。図録は、湖北の至宝をほぼ網羅。

真宗にスポットを当てた展示会は、今回が初めてである。

○3階展示室「浅井三代と小谷城」

第2回テーマ展「賤ヶ岳合戦と浅井三姉妹」 森岡から解説

3)平成22年度下半期実績報告および平成23年度事業計画について

4)今後の博物館活動への意見・提言

5)新規購入資料の内覧

<意見・講評>

木村委員…大変分かりやすく展示をされていることで、前向きな姿勢を感じた。

担当された学芸員の英知が凝縮されていると思う。忙しい中で、あれだけの努力に敬意を表したい。

小和田委員…まさに時機を得た展示である。

小谷城戦国歴史資料館、浅井歴史民俗資料館でのおもてなし人による案内も分かりやすく良かった。

長浜城歴史博物館の展示については、3階の四落城物語のタペストリーが斬新だと感じた。見る者の視覚に訴えかけることは大切であり、長浜城ならではの展示だと思う。

2階の真宗展についても深く知ることができた。今年は法然800回忌、親鸞750回忌という節目の年であり、多くの人々の注目を集めるのではないか。

草野委員…子どもたちにも分かりやすい展示を心がけておられるので、地元はもちろん、長浜城に来る子どもたちがますます歴史に興味を持ってくれることを期待する。

大橋会長…話題性のある展示であり、説明文も分かりやすい。どんな人でも楽しめる展示内容となっている。個人的には柴田勝家の禁制に興味をひかれた。常々なぜ神田と勝家か、と思っていたが、今日は新しい発見があった。

小和田委員…真宗展の図録にも、今回初めて見るような資料が多数掲載されている。

木村委員…博覧会の期間中、長浜城として、どれぐらいの入館者数を予想しているのか。

事務局…約20万人を予想している。

大橋委員…一豊博覧会のときは、どれぐらいの入館者があったのか。

事務局…一豊博の時は30万人であった。今回も、博覧会が始まった1月から3月までの入館者数を入れると、約30万の見込みである。

ちなみに平成8年の秀吉博のときは、入館者数50万人であった。

木村委員…やはり東北大地震の影響もあるのだろう。

今後も多くのお客さんに来ていただきたいと思う。

長浜城歴史博物館は、資料収集に対する関心が高く、他の館には見られないことだと思う。次回の博物館協議会も楽しみである。

大橋会長…これもちまして、終了します。慎重審議、ありがとうございました。